

令和6年度 自殺ハイリスク者等支援研修会 御案内

自殺は、遺族に様々な感情や思いを抱かせる。ひとりの自殺は家族や友人だけでなく、地域社会、学校や職場など、少なくとも周囲の5人から10人の人たちに深刻な影響を与えていると言われている。また、病気、災害、事故、自死等、原因が何であっても大切な人との別れは大きなストレスとなります。

今回の研修では、遺族支援について、死別の悲しみのプロセスとその支援に必要なことについて学びましょう。

日 時 令和6年12月12日(木) 9:30~11:30
(開場9:00)

場 所 COCO・てらす 4階研修室1 (京都市中京区壬生東高田町1番地の20)

定 員 50名(先着順)

受講料 無料

申 込 右記の申込フォームからお願いします

(当センターホームページからもアクセスできます)

https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=8994

申込期間 令和6年11月7日(木)~令和6年12月5日(木)

受講対象 医療関係者、保健・福祉相談支援業務等に従事する方



プログラム

9:30~ 開会挨拶

9:35~ 講演 「死別の悲しみのプロセスとその支援に必要なこと

~遺族と支援者を守るために~」

京都文教大学 臨床心理学部 准教授 倉西 宏 氏

11:00~ グループワーク(20分)

11:20~ 質疑応答(10分)

11:30 終了

問合せ先

京都市こころの健康増進センター 相談援助課 ☎075-314-0355



京都市こころの健康増進センターHP
<https://kyoto-kokoro.org/>



講師紹介

京都文教大学 臨床心理学部 准教授 倉西 宏 氏

プロフィール

京都文教大学臨床心理学部 准教授

京都文教大学グリーンケアトポス*こはこ 代表

臨床心理士、公認心理師、博士（臨床心理学）

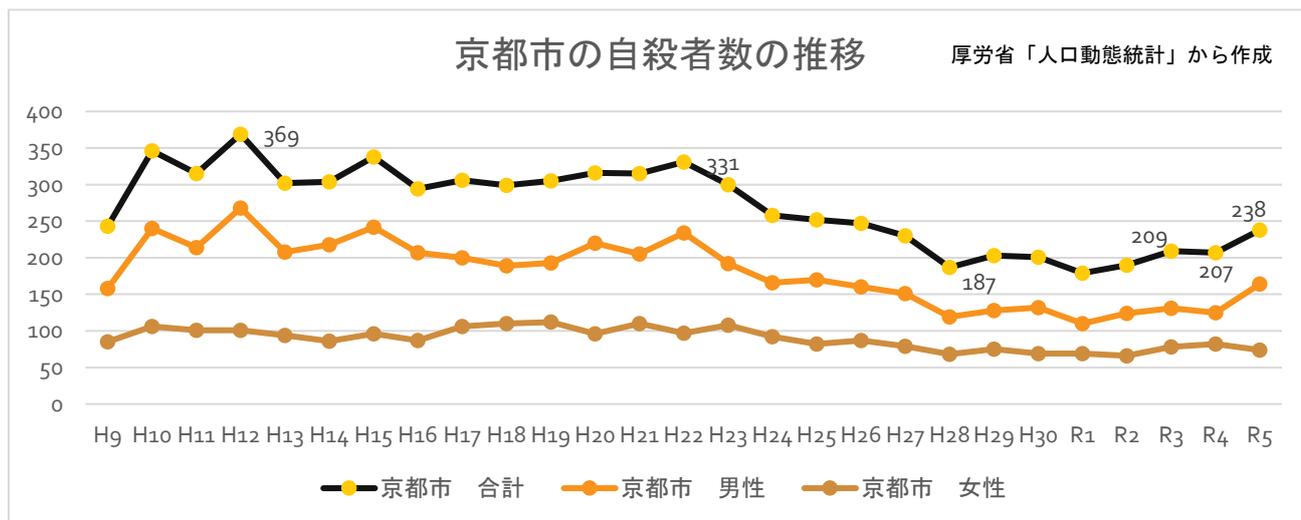
著書に『遺児における親との死別体験の影響と意義-病気遺児、自死遺児、そして震災遺児がたどる心的プロセス-』（単著、風間書房）、『自殺をケアするということ：「弱さ」へのまなざしからみえるもの』（共著、ミネルバ書房）ほか。

メッセージ

人はつながりのある誰かを失う時、悲しみに包まれ、悩み苦しむことがあります。そこから進むことは並大抵のことではなく、その先の人生の灯を消す力さえ持っています。このような経験をした人の前に立つ時、その苦悩や死別という触れ難いものに対峙することが求められてしまい、時に戸惑い、時に疲弊することもあります。

そのような時に必要となるのは、道しるべとしての「知識（死別反応やその後のプロセス）」と遺族とのやりとりに必要な「態度（関わる際の支援者の在りかた）」を学ぶことと言えます。これらのご遺族と支援者を共に守るものになると思います。今回の研修が日々の支援業務における具体的なやりとりのヒントが得られるものにできればと思っています。

京都市の自殺の現状



本市の自殺者数をみると、毎年 300 人前後の水準で推移していましたが、平成 23 年からは減少傾向となり、平成 28 年以降では 200 人前後となっています。しかし、令和 2 年以降は全国同様増加傾向となっています。